

<報道発表資料>

令和 8 年 7 月 3 1 日

京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課

梅毒の流行が続いています

令和 7 年の梅毒の新規報告数（速報値）は、全国で 13,530 件と前年からやや減少しましたが、京都市では 117 件と過去最多であった令和 6 年の 125 件に次ぎ 2 番目に多く、依然として流行が続いています。

京都市における令和 8 年 1 月から 6 月まで（以下、「令和 8 年上半期」という。）の新規報告数は、54 件（速報値）と、過去最多の報告数であった令和 6 年の同時期（54 件）と同様のペースで推移しており、引き続き注意が必要です。

梅毒は、感染していても症状が軽くなったり消えたりする時期があり、感染していることに気づきにくい特徴があります。また、妊娠中に梅毒に感染していると、流産や死産のリスクが高まり、母子感染によって赤ちゃんが梅毒に感染した状態で生まれる「先天梅毒」となるおそれがあります。梅毒は自然に治ることはありませんが、適切な治療により完治することができる感染症です。

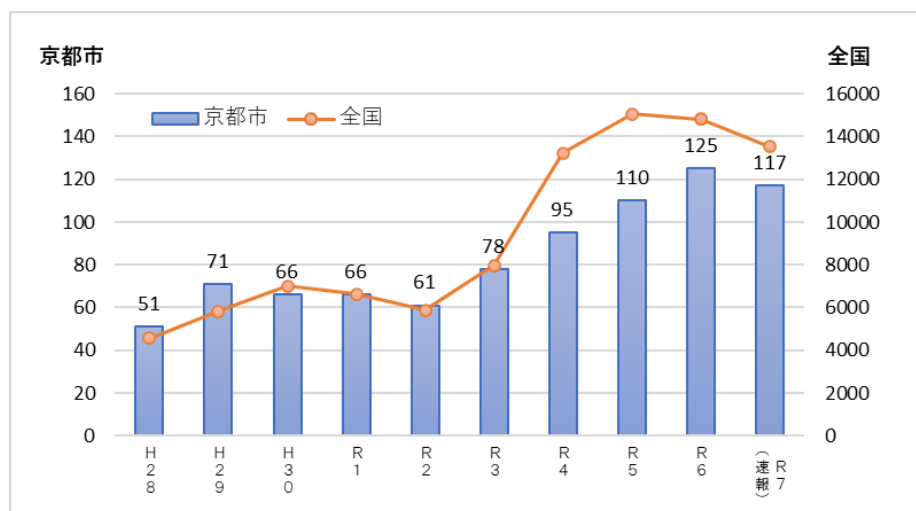
コンドームを適切に使用し感染を予防すること、気になる症状がある方は医療機関を早期に受診することが大切です。また、症状は無くても、感染が心配な行為があった方は、本市が実施する無料・匿名の「HIV・性感染症検査」を受検してください。

【本市における令和 8 年上半期の新規報告数（速報値）について】

<年次別報告数>

年次	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8 1月~6月
京都市	51	71	66	66	61	78	95	110	125	117※ ¹	54※ ²
全国	4,575	5,826	7,007	6,642	5,867	7,978	13,221	15,055	14,663	13,530※ ¹	5,716※ ²

※ 1 令和 7 年第 52 週時点速報値 ※ 2 令和 8 年第 26 週時点速報値



<年代別報告数>

年代別の新規報告数は、男女ともに20代・30代が最も多く、全体の半数以上を占めています。
女性は10代の発生報告が数例あります。

表 男女別・年代別報告数（令和8年上半期）

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男	0	0	7	7	6	3	1	24
女	0	3	9	6	6	5	1	30

<感染経路別報告数>

男女ともに、異性間性的接触の報告が最も多い状況です。

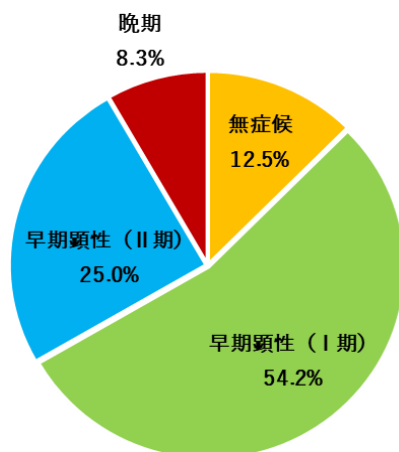
表 感染経路別報告数（令和8年上半期）

性別	性的接触同性間	性的接触異性間	性的接触不明	経路不明	合計
男	5	17	0	2	24
女	0	24	1	5	30

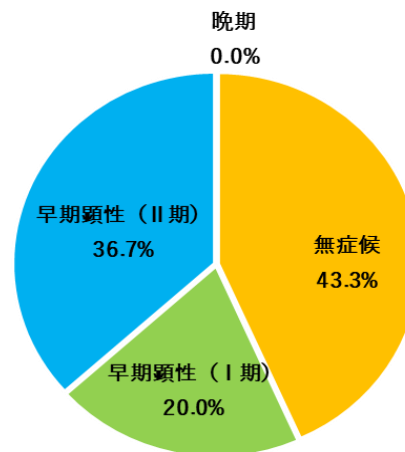
<病型（梅毒の進行度）別報告>

梅毒は感染してからの経過によって症状等が変化します。診断時点の病型別報告では、男性は早期Ⅰ期が54.2%と最も多く、早期Ⅱ期が25.0%、無症候（感染後に年月が経過し、症状が消滅している状態を含む）が12.5%でした。女性は、無症候が43.3%と最も多く、早期Ⅱ期が36.7%、早期Ⅰ期が20.0%でした。

<男性>



<女性>



早期Ⅰ期 (感染後約3週間)	硬結（赤いしこり）、硬性下疳（潰瘍）、リンパ節の無痛腫脹などが出現する。
早期Ⅱ期 (感染後数か月)	皮膚等に梅毒性パラ疹や丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマなど特有な発疹が出現する。
晩期（感染後数年）	皮膚や内臓に病変が見られ、神経症状、眼症状が起こる。
無症候 (無症状病原体保有者)	梅毒に感染しているが、自覚症状のない期間。 <u>各期の間に見られる。</u> なお、この間も <u>症状は進行しており、感染性がある。</u>

【京都市が実施しているH I V・性感染症検査について（令和8年度）】

京都市では、無料・匿名で受けられるH I V・性感染症検査を実施しています。梅毒の検査は採血で行い、結果は約2週間後に面接にてお伝えします。

心配なことがあれば、一度検査を受けてみましょう。また、感染の広がりを防ぐためにパートナーも受検することをお勧めします。

※ すでに症状がある方は、医療機関を受診してください。

<令和8年度の京都市H I V・性感染症検査体制について>

	平日昼間		平日夜間		土日	
受付時間	毎週 月曜日 (祝日除く)	午後2時～ 午後3時30分	月2回 月曜日 (祝日除く)	午後5時30分 ～午後7時	月2回 土曜日	午後3時15分～ 午後5時15分
					月2回 日曜日	午後2時～ 午後4時
場所	一般財団法人 京都工場保健会 (〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町67番地) ※ 無料駐車場有					
予約	【要予約】電話番号：0120-636-040 (京都工場保健会 受付時間：平日午前8時30分～午後4時30分)					
検査項目	H I V、性感染症（梅毒、淋菌、クラミジア）※ 性感染症は単体受検不可					
結果返却	面接にて返却（H I Vは即日、性感染症はおおむね2週間後の検査日）					

詳しくは、京都市情報館「京都市のH I V検査・相談について」をご覧ください。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html#HIVkensa>

京都市情報館



二次元コード



（参考）梅毒について

（1）原因、特徴

梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる感染症で、主にセックスなどの性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などでも感染します。また、一度治っても再び感染することがあります。

（2）予防方法

予防方法として、感染部位と粘膜や皮膚が直接接触をしないように、コンドームを使用することが勧められます。ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染が起こる可能性があるため、コンドームを使用しても、100%予防できるわけではありません。感染しているかどうか心配なときは、検査で確認することができます。

（3）治療について

処方された抗菌薬（内服薬や注射薬）で治療します。内服期間等は病期により異なり、医師が判断します。病変の部位によっては入院し、点滴で抗菌薬の治療を行うこともあります。医師が治療を終了とするまで、処方薬を確実に服用し続けることが重要です。

<お問合せ先>

京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課

電話：075-222-4244